

本太中だより

令和8年9月25日

第6号

さいたま市立本太中学校

048(886)4305

<http://motobuto-j.saitama-city.ed.jp>

E-mail motobuto-j@saitama-city.ed.jp

自分を尊重することの価値
自分を大切にすること、そして相手を尊重すること

校長 田中 一秀

2学期が始まって1か月、学校は生徒たちの元気な声に包まれ、活気に満ちています。今年の夏も大変暑い日が続きましたが、高く澄み渡る空や吹き抜ける爽やかな風に、秋の訪れを感じます。現在、運動部の生徒たちは新人戦に向けて練習に励んでいます。日々の積み重ねの中で、自分たちなりの「当たり前」の基準を高めながら努力を続ける姿に、大きな成長を感じています。

さて、先日公表された「OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2025)」では、日本の生徒が世界トップレベルの学力を維持している一方で、学習への意欲や学びと将来とのつながりに課題が見られました。学力を身に付けることはもちろん大切です。しかし、それと同じように、「自分には価値がある」「自分にはできることがある」と感じながら意欲をもって学ぶことも大切です。そこで、一人ひとりが自分の価値や可能性を実感しながら学ぶことのできる教育活動を、これまで以上に大切にしていきたいと考えています。

私は、その土台となるのが「自分を尊重すること」だと考えています。自分を尊重するとは、「自分にはよさがある」「自分は大切な存在である」と受け止めることです。自分の長所だけでなく、苦手なことや失敗も含めて、自分自身をかけがえのない存在として認めることです。そのような思いは、自信をもって挑戦する力につながります。

また、自分を尊重できる人は、他者を尊重することもできます。自分を大切な存在だと感じている人は、自分と同じように他者にも価値があることに気付くことができるからです。私たちは一人で生きているわけではありません。家族や友人、地域の方々など、多くの人との関わりの中で生きています。だからこそ、自分を大切にすることと同じように、相手の価値や個性を大切にすることも重要です。自分を大切に、自分自身を尊重できてはじめて、他者の思いや立場に気付くことができるのだと思います。

校長室のホワイトボードには、「May All Beings Be Well and Happy」という英語の歌詞を貼っています。意味は「すべての生きとし生けるものが幸せでありますように」です。私は、この言葉に私たちが目指したい社会の姿が表されているように感じています。

しかし、正直に申し上げれば、私自身もいつもそのように考えられるわけではありません。「自分さえよければ」「自分さえ楽しければ」と思ってしまうこともあります。また、苦手だと感じる相手に対して、よくない感情を抱いてしまうこともあります。人は誰しも心の中で様々なことを考えます。それ自体は自由で自然なことです。それでも、自分のことだけを考えて行動すれば、人とのつながりは失われていきます。反対に、自分を大切にしながら、相手のことも大切にしようとする姿勢は、人と人との信頼関係を育みます。そして、その積み重ねが、誰もが安心して過ごせる学校や社会につながるのだと思います。

人は一人ひとり、それぞれに価値のある存在です。自分のよさや可能性を認め、自分を大切にすること。そして、その思いを周囲の人へと広げていくこと。その積み重ねが、互いを尊重し合える学校づくりにつながると信じています。生徒たちが自分らしく成長し、それぞれの未来を切り拓いていけるよう、これからも教育活動を進めてまいります。